

ケイ子の東奔西走日記

2022(令和4)年2月～2023(令和5)年1月

2月25日 政策懇談会



年4回、定例議会に向けての意見交換。参加者からは、コロナ禍の介護や保育士の処遇、森林環境譲与税の人口配分問題、国の病院統廃合方針、ALPS 処理水の海洋放出資料が学校配付された問題など国政課題の不満が噴出。市政課題は、町なか再生、学校施設老朽化、除雪…多数の意見がでた。聞く耳を大切にしたい。(岸田首相じゃないけど…)

7月8日 国道107号整備要望を受ける



国道107号の改良整備促進期成同盟会(会長・西和賀町長)が県議会に要望書を提出。商工建設委員長として同席した。事業の推進にむけ支援することを約束。

7月21日 商工建設委員会の国道107号調査



大石地区の工事現場では、11月中の通行再開にむけ工事関係者が奮闘しており感謝々々。本格的な災害復旧工事は、令和8年度迄にトンネル(約1.5km)を含む約2.5kmの事業が予定されている。事業費は130億円だが、詳細設計になると事業費もアップし工期も伸びると想像する。いずれにしても大規模な災害復旧工事となる。

9月19日 安倍元首相の国葬に反対する北上市民集会 & デモ行進



緊急集会にもかかわらず約100人が参加。国葬は誰が対象者でも法的根拠や憲法に抵触する事、安倍氏の政治姿勢の問題、旧統一教会との問題、岸田首相



の説明責任など数えきれないほどの問題を抱えている。国葬は強行されるだろうが、私たちは黙って見過ごす訳にはいかないと、声を上げた。

9月7日～9月29日 市町村要望ヒアリング



9/7～9/29 立憲民主党岩手県連と会派・希望いわては、県内33市町村の要望をヒアリングした。道路整備、財政支援、高校の存続と教職員配置、産業振興、交通施策、医師確保など多岐にわたる要望を受け、10/17は知事要望を行った。



11月1日「わたねスクウェア」で会派研修



不登校・引きこもりの要因は複雑で悩みも深い、「ありのままでごさうちに笑顔になっていく」と所長の後藤誠子さんのお話。県内各地から、居場所を求めての来所者も多いとのこと。活動資金や、

県の取り組み課題も伺い、一般質問の参考にさせてもらった。

11月29日 中央省庁要望

農水省、国交省、文科省を訪問。横沢参議院議員と小沢一郎秘書さんが同行し、事務方のトップ等に市町村要望を伝達した。(2年ぶりの東京なのに日帰り…)



こぼれ話(最近多い会話)

- ★市長選にでるY氏はどんな人?⇒まじめな人。よく決断したと思うよ。⇒市民は知らないよ。⇒そうだね。今度呼ぶから来てみて。
- ★県知事選は女性候補を応援する?⇒応援しないよ。⇒え・なんで?⇒彼女は少子化、賃金格差、女性の転出…、知事を激しく攻撃するんだけど、岩手県だけじゃなく全国の問題。長年の国政の無策が大きな要因。その自民党とベッタリの選挙をする矛盾は感じないのかな。県議会の「トンデモ発言集」が出たら見せるね。
- ★年金生活者からの電話・・・物価高、灯油、電気代が上り生活の危機。介護保険料の天引きもキツイ。防衛費増税に反対だ。
- ★麻生太郎副総裁が「少子化の原因は晩婚化」と言ってたよ。⇒少子化は女性の責任じゃないよ。非正規雇用を拡大させ将来不安と貧困化。国は教育費、仕事と家庭の両立に本気じゃなかったこととか、政治の責任もあるよね。⇒政治を変えなきゃね。

平和で明るい社会を子どもたちへ・・・

岩手県議会議員 佐藤ケイ子



県議会レポート

No.13 2023年(令和5)2月

編集発行: 岩手県議会議員 佐藤ケイ子
事務所: 北上市青柳町1丁目5-39 TEL0197-72-7548 fax72-7549
自宅: 北上市下江釣子16-154-3 (TEL&fax 0197-77-2126)
E-mail: keiko-ktkm@poppy.ocn.ne.jp ホームページ http://www.sato2007.com/

ご意見・ご要望等をお聞かせください。今後の政策づくりに生かしてまいります。



2022年もマスク着用の1年間でした。2023年はコロナ禍の改善やウクライナに平和が戻ってくることを切望するばかりです。今年はおさげ年。跳ねる年、跳躍の年となることを祈念します。

・・・暗雲を何とかできないか・・・

2022年はコロナ感染拡大が止まらないまま、医療、経済活動、教育文化、そして人的交流等すべてに大きな影響がありました。その上に、円安や物価高が生産活動や暮らしを直撃しています。さらに、ウクライナの悲惨な状況に、心痛めるばかりの年でした。

今年こそは、コロナやウクライナ問題が改善に向かい、重くのしかかった閉そく感を打破してくれるような政治に期待したいところです。しかし、防衛増税を始めとする国民負担が気になります。

・・・地元の明るい話題に感謝・・・

岩手県出身の大谷翔平選手や佐々木朗希選手が大活躍し、2023年WBCのメンバーに選出され、小林陵侖選手は冬季オリンピックで金・銀のメダル獲得など明るい話題でした。

北上市では黒沢尻北小の合唱、上野中の吹奏楽が全国1位という快挙を上げ、更には岩崎鬼剣舞と冨田鬼剣舞がユネスコ無形文化遺産に登録され、市民の誇りを高めてくれました。

西和賀町のユキノチカラプロジェクト協議会が、農林水産省と内閣官房による「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」に選定され、地域活性化優良事例として表彰されました。

スポーツ、文化芸術、産業振興など一朝一夕に成果が出る訳ではなく、長い間の関係者の努力や熱意の賜物と感謝です。次代に継承していくことの重要性を認識し、さらに応援していきましょう。

・・・問われる地域力・・・

今年の岩手県は「いわて県民計画(2019-2028)」第2期アクションプランで、人口減少対策に最優先で取り組むこととし、結婚・出産・子育てなどの支援や、GX(グリーン・トランスフォーメーション)、DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進などを重点事項に取り組むということです。その中心は市町村との連携であり、益々地域力が問われることとなります。

地域課題の情報を共有しながら、県政に反映させてまいりますので、どうぞよろしくご意見・ご要望を申し上げます。

「県政報告会&新春のつどい」のご案内

日時: 2023(令和5)年
2月19日(日) 午後5時から
場所: ブランニュー北上
会費: 4,000円
ゲスト: 岩手県知事 達増拓也様
前沿岸広域振興局長 八重樫浩文様ほか

午後3時～ 政策懇談会、午後4時～後援会総会
午後5時～ 県政報告会&新春のつどい

皆様のご参加をお待ちしております。

お席の準備の都合上、2月9日(木)までに参加連絡をお願いします。

連絡先 TEL: 0197-72-7548
FAX: 0197-72-7549
E-Mail: keiko-ktkm@poppy.ocn.ne.jp

主な役職

岩手県議会議員(商工建設委員会委員長、教育子ども政策調査特別委員会委員)、自治労岩手県本部政治連盟会長、北上市職労特別執行委員、立憲民主岩手県連副幹事長、社民フォーラム岩手代表代行

10月18日〜27日

決算特別委員会では、連日、多方面の質疑を頂きました。(商工建設関係は当該委員につき質疑せず)

質問項目

1. 税収確保
2. 職員体制
3. 女性職員の登用
4. 性犯罪・性暴力被害者支援
5. 女性消防士の状況
6. バス路線の維持・確保
7. タクシー事業者支援
8. 生活福祉資金貸付
9. 介護職員、保育士等の処遇
10. 児童虐待
11. 消費生活相談(統一教会)
12. 水田収益率強化
13. 鳥獣被害対策
14. 農業団体の女性登用
15. 国体とアスリート支援

2022年(令和4年)10月21日(金曜日) 第(4)回

タクシー運賃収入31%減

1921年度比 コロナ苦境続く

県議会 議決

県議会10月20日(金)決算特別委員会を開き、タクシー事業者の2021年度の運賃収入が新型コロナウイルス感染症の影響で前年度比31%減少していることが明らかになった。コロナ禍の長期化で経営環境は厳格化している。タクシー事業者は、今年4〜8月の19年度同期比で28.7%減の11億1,200万円の減収に陥り、乗車回数は前年度比19%減の3,542回に落ちた。21年度は2,000台のタクシーを保有する。道路維持に六

県議会10月20日(金)決算特別委員会を開き、タクシー事業者の2021年度の運賃収入が新型コロナウイルス感染症の影響で前年度比31%減少していることが明らかになった。コロナ禍の長期化で経営環境は厳格化している。タクシー事業者は、今年4〜8月の19年度同期比で28.7%減の11億1,200万円の減収に陥り、乗車回数は前年度比19%減の3,542回に落ちた。21年度は2,000台のタクシーを保有する。道路維持に六

8.盛岡赤十字病院について

滝沢市長選挙で「盛岡赤十字病院の誘致」をあげた候補が当選したが、「県では、移転計画がある」ということは承知していない」とし、盛岡市長も「そんな話は聞いていない」との答弁だったとのこと。日赤病院は、公的病院として、盛岡市や県も補助金を出し、地域医療や周産期医療の拠点として大きな役割を果たしている。



岩手日報 12月6日
佐藤 ケイ子氏 (希望50代)

就農者の確保いかに

盛岡赤十字病院の移転計画はあるのか。

盛岡赤十字病院の移転計画は、日本赤十字社達増知事 日本赤十字社 支部では移転新築する計画は上がっていない。医療施設に関する事業計画、設置休止などの承認申請については、支部長の決裁事項から除かれており本社の決裁事項となっている。

雇用就農者の確保、育成に向けた取り組みは、藤代克彦農林水産部長 就労相談会や農業法人での短期農業研修、経営計画の作成支援などを実施しているほか、新規就農者への支援策の情報を希望者に提供している。

4.福祉施策について

- (1) 介護事業所のコロナ感染拡大の状況と「緊急時介護人材確保・職場環境復旧支援事業費補助金」の活用の見通しは。物価高騰支援金の申請簡略化を。
- (2) 困難女性支援法が成立し、「女性相談支援センター」の設置が義務付けられるがどう対応するか。

5.ひきこもり、不登校について

- (1) ひきこもり支援団体への財政支援や交流研究活動を県がリードするべきではないのか。
- (2) 不登校特例校は全国で21校設置されている。本県でも特例校設置を検討するべきではないか。

6.東北横断自動車道釜石秋田線について

- (1) 北上西ICから横手IC間の4車線化は着手されたが、開通見込みはどうか。
- (2) 北上JCTと江刺田瀬ICを直結するルート of 整備を県新広域道路交通計画に盛り込み、国に整備を要望するべきではないか。

7.働き方改革について

- (1) 県職員の職場環境について
 - ・新型コロナウイルスが長期化し、関係職員が疲弊している。保健所体制強化を図るべき。
 - ・長時間労働による保健指導対象者は、10月で延べ570人と長時間労働は是正されていない。適正な人員配置を望む。新年度の採用計画はどうか。採用辞退者対策の取り組みは。会計年度任用職員の処遇改善と人員確保の考えは。
- (2) 教職員の働き方改革プランの取組みについて
 - ・県立学校の時間外在校等時間は月100時間以上をゼロに縮減する目標だが、実態はどうか。
 - ・学校には各種の支援員がいるが、ほとんどが非常勤であり、常勤のスタッフが必要である。教員業務等支援員やスクールサポートスタッフの充実や常勤化の検討はどうか。

12月6日 岩手日報 2P

月100時間以上71人

県立学校 昨年度 超過勤務解消に至らず

県議会 一般質問

県議会12月定例会は5日、一般質問が行われ、ハクシラ美穂子(いわて県民クラブ)が、佐藤ケイ子(希望)等から、長時間勤務削減について、質問された。佐藤氏は、長時間勤務削減の取り組みについて、県立学校における取り組みを推進するための「県立学校働き方改革プラン」(21年度版)を策定し、21年度は延べ71人(前年度は延べ71人)が超過勤務解消に成功したと報告した。佐藤氏は「働き方改革プラン」の策定は、長時間勤務削減の取り組みを推進する上で、重要な役割を果たしているが、21年度は延べ71人と達成に届かなかった。また、時間外在校等時間(週休日の部活動等時間)を削減する取り組みも、21年度は延べ71人と達成に届かなかった。

2022(令和4)年12月議会

12月5日に一問一答方式で一般質問しました

1.公共交通について

- (1) JR 東日本は赤字地方路線を公表し、鉄道存続かバス転換等の議論を求めている。ローカル線の維持への決意と対応策は。知事会や市町村との連携強化を。
- (2) バス・タクシーはコロナや燃料高騰の影響と共に人員不足で厳しい状況。事業継続のための支援策を。

2.旧統一教会の影響を受けた施策について

- 旧統一教会による霊感商法や宗教 2 世の人権侵害などが問題になっている。また、ジェンダー平等や性教育の否定、同性婚、LGBT、選択制夫婦別姓などに強烈的な批判を繰り返し政策に影響を与えたと言われている。
- (1) 旧統一教会の県内の相談は 10 年間で 20 件というが、政府の救済法案は不十分である。被害者問題連絡会議を設置する考えはないか。
 - (2) 統一教会のバッシングにより性教育の「はどめ規定」が設けられたため、性の知識が無く、望まない妊娠や性暴力などの問題がおきている。学校での性教育にどう取り組むか。
 - (3) 同性カップルを認めるパートナーシップ制度の導入が全国で進められている。早期の制度化実現を。

12月6日 読売 25P

パートナー制「岩手モデル」

県指針策定へ 認定要件など「検討」

LGBTQ(性的少数者)のカップルをパートナーとして公的に認める自治体の「パートナーシップ制度」導入について、達増知事は5日、「市町村との連携を重視した『岩手モデル』のようなのを検討していきたい」と表明した。県議会一般質問に答えた。

同制度は2015年に東京都渋谷区と世田谷区が全国で初めて導入以降、全国各地で導入が加速。県内でも関市が導入方針を進めている。一方で、

3.持続可能な農業について

- (1) 輸入依存で農業は危機的状況。農家の所得補償制度で食料自給率向上や後継者育成を図るべきで、農政の大転換を求めざるべき。知事の食料安全保障の考えは。
- (2) 地域内で家畜飼料の自給率を高めるため、水田等での子実用トモロコシの作付け拡大の取組みを。
- (3) 農業従事者減少と高齢化が深刻である。新規就農者や経営体の育成にどう取り組むか。
- (4) 地方移住の関心が高まる中で、雇用就農者の確保、育成、労働環境改善をどう促すか。親元就農への独自支援の拡大を。

北上市婦協市民公開講座

「性と生を語り合える社会へ」

2023(令和5)年 2月26日(日)

日時 9:50〜(受付9:30〜)

場所 日本現代詩歌文学館

演題 『岩手の若者に関わる全ての人たちへ 知っておきたいこと・知らなければならぬこと』

～正確な知識は子どもたちを護る武器であり、鎧です～

講師 県立中部病院 第一産婦人科長 秋元 義弘氏

お問合せ・申し込み 菅野 080-6032-9245 高橋 090-2369-2554

防衛費倍増??

戦争を知っている世代が政治の中枢にいるうちは心配ない。平和について議論する必要もない。

戦争を知らない世代が政治の中枢となったときはとても危ない(田中角栄)